

届け、私のエール

青森市立合浦小学校 6年 大水 明紗

「これからはもっと募金しよう。」

私は今まで「募金しても意味あるのかな。」と思っていました。だから、「募金はいいや。」とも思っていました。募金は、高齢者や障害者を助けているということは知っていましたが、何となく他人事と思っている自分がいました。

ある日、母に

「募金ってしても意味があるのかな。」

と聞きました。すると母は、

「その募金で暮らしが良くなり、役立っているんだよ。募金は大切だよ。」

と言いました。私は時々流れる赤い羽根募金のコマーシャルが気になるようになりました。そして、この時初めて募金の大切さを意識したのです。「この募金は青森市の暮らしに関わってくるし、もし災害が起きたらその募金を使うことになるんだ。」と思ったら、「これからはもっと募金しよう。」と言う気持ちになりました。

私はこのことを知ってから募金をすると、何か今までとはちがう気持ちになりました。お金を募金箱に入れるときにはどきどきしますが、お金を入れたしゅんかんにすぐくよい気持ちになりました。不思議なことにお金から「行ってきます。」という声が聞こえたような気がして、私は「ふふっ。」と思わず笑ってしまいました。「募金ってこんなに楽しいんだ。」と思ったからです。その様子を見た弟が

「ぼくもしたい。」

と言って募金箱を見つけると、いっしょに募金をするようになりました。

私は赤い羽根募金は「うれしさのやりとり」だと思っています。私みたいに「募金の意味があるのかな。」と思っている人たちもこの募金が何にどのように使われているのかを知ることができたら、うれしさのやりとりを出きる人がもっと増えるでしょう。

私はこの募金が子育てをしている人にも使われてほしいと思っています。高齢化社会が進んでいる今、子育て金はとても必要です。子育てとともに介護をしていることもあるかもしれません。この町を支えるべき人がつかれてしまっっては、青森の町がよりよくなることは難しいです。だから、私はこの町をよくしてくれている人、がんばっている人、そして困っている人たちに募金をというエールを精いっぱい送りたいと思います。私のエールが一人一人に届きますように。